

現在の会員数 一般会員 140名 団体会員 8団体 協会員 4名 (平成29年7月現在)

年次定例総会の報告

平成30年7月21日に「水を語る会」年次定例総会が開催された。定例総会には102名の会員が参加し、平成29年度事業報告・収支決算、平成30年度事業計画・収支予算、役員の変更、会則の改定が上程され、原案のとおり承認された。

総会特別講演の報告

日時：平成30年7月21日(土) 14時～15時30分

場所：日本水道会館7階会議室

講演「膜汚濁の動向」

(講師：茂庭 竹生 様 (東海大学名誉教授))

特別講演では、冒頭、膜の種類としてMF膜、UF膜、NF膜、RO膜の技術的な違いを紹介されました。無機膜は本邦特有の技術であり、また、2004年からの4年間で特に汚濁施設の建設が進みました。当初はM



F膜、UF膜がほぼ同数で

あったものの、途中からMF膜の導入が増え、特にMF無機膜がシェアを増やしていることを紹介されました。さらに、MF有機膜、UF膜、MF無機膜の水源別推移のデータを紹介頂き、MF無機膜は地表水の占める比重が大きいことを説明頂きました。

膜汚濁普及における問題点として、メーカーが技術開発を担っているため、事業体にノウハウが蓄積されないことや、認可を行う都道府県も技術選定の適否が判断できないことを挙げられました。このような状況下、コンサルタントの役割が、従来の設計を中心とした内容から事業体のアシスタントや完成図面・許認可に係る書類整備などに変化していくことを説かれました。一方でメーカーもDBOなどの発注形態の変化により膜汚濁施設の運転管理を担う事例が増えています。しかしながら、トラブルなどが公表されず、ノウハウが一般的に蓄積されていきません。

今後の動向として、大規模な浄水施設については地

表水を水源とするため、水源水質の変動に対応する必要があることや、膜単独でなくハイブリット型のシステムが増える可能性を説かれました。一方で中小規模の浄水施設は減る傾向にあるものの、無人でも確実な運転が求められます。このため、浄水処理に適した膜の開発や運転管理におけるノウハウの蓄積が課題となることを説明頂きました。



会場の様子

定例幹事会の報告

日時：平成30年7月21日(土) 11時～12時

場所：日本水道会館7階会議室

議題：総会関連、次回集会準備他

編集後記

この度「水を語る会講演録第5号」が発行されました。過去の第1号から第4号までの講演録はホームページ上で公開していますので、是非、ご覧ください。また、第31回集会からはCPD受講証を発行する予定ですので、必要な方は受付時にお申し出ください。

引き続き、水を語る会の活動に対しご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

(幹事 吉川 泰代)

◆新規入会をご希望の方は、事務局までご一報下さい。詳しくはホームページをご覧ください。

→ <http://mizuwokatarukai.org/>

以上